

令和3年度第1回鳥取市政懇話会 議事概要

日 時：令和3年7月26日（月）午後1時30分～3時30分

会 場：鳥取市役所本庁舎6階 会議室6-3～6-4

出席者：【鳥取市政懇話会委員（10名）】

会長 児嶋祥悟委員、副会長 林由紀子委員

植田紀子委員、景下明美委員、国森洋委員、綱本信治委員

中村克彦委員、松下稔彦委員、山口朝子委員、山脇彰子委員

【鳥取市】

深澤義彦市長、羽場恭一副市長、浅井総務部長、高橋企画推進部長

河井経営統轄監、国森環境局長、平井経済観光部長、

横尾教育委員会事務局次長兼教育総務課長、安本教育委員会事務局次長兼学校教育課長、

渡邊企画推進部次長兼政策企画課長、上田地方創生・デジタル化推進室長、

平田政策企画課長補佐

1 開会

2 市長あいさつ

委員の皆様には日頃より市政の推進にご協力いただき感謝申し上げます。新型コロナウイルス感染症の終息が見通せない状況が続いている。一方で、ワクチン接種を進めており、今日から50～59歳の方を対象とした予約受付を開始したところである。これから国からのワクチン供給が進む予定であり、順次、各年代の方の予約受付を開始していきたい。

本日の議題は、DX・SDGsの推進についてである。DXの推進については、国・地方・民間経済界と一緒に進めていき、アフターコロナの時代に対応できるよう取り組んでいきたい。また、SDGsについては、本市は今年5月に「SDGs未来都市」に選定された。2030年に向けて、目標をしっかりと定め、この取り組みもしっかり進めていきたい。

本日はこの2点について、委員の皆様から忌憚のないご意見を賜りたい。

3 会長あいさつ

本日の2つの議題について、難しい話かもしれないが、しっかりと頑張っていただきたい。

4 議事

(1) DXの推進について・・・資料1

(説明)

(意見交換)

○山脇委員

鳥取市に新しく「地方創生・デジタル化推進室」ができたとのことだが、人材育成・確保がとても重要になると思う。今どこの企業もシステム開発や運用・保守を外部のベンダーに依頼することが多く、なかなか自社でできる人がいない状態である。そういう部分で高いコストが発生すると思う。市役所としての技術・ノウハウが蓄積しづらくなることを懸念している。デジタル技術・ノウハウに対して精通する人材の確保と今後の育成についてどう考えているか。

■河井統轄監

人材確保については、以前から専門職を採用してきている。また、近年は社会人採用として、民間のIT企業の経験者を採用し、継続的に専門的人材の確保を図っている。現在雇用している職員についても、全庁を挙げて専門的な研修を行っているところである。また、これからの検討にはなるが、国の方で専門的な人材の派遣制度もある。必要があれば、そういう制度も活用しながら人材育成・確保を進めていきたい。

○網本委員

鳥取市のインターネットの普及率は今どれくらいか。

■高橋部長

確認して後ほど回答する。

○松下委員

7月21日付の日本経済新聞に掲載された「多様な働き方ができる自治体」のランキングで、鳥取市が2位というニュースがあった。公衆無線LANの整備状況やワーケーションの取り組みを発信している部分が評価されており、やはりこの情報化の政策は非常に重要だと思った。人を呼び込むためにも、力を入れていただきたい。私たちは社会福祉事業を行っており、福祉サービスの充実のためにもDXの推進は必要になってくると思っている。データベース化やネットワーク化、具体的なニーズに適応したサービスの提供、事業所間の連携において、DXの考え方を生かせばサービスの向上につながると思っている。それぞれの分野で変革が必要になってきていると思うが、そのために一番重要なのは、企業や市民の方々への情報提供・啓発である。弱い立場の方への支援が必要である。

○国森委員

資料12ページにアクションプランに関する記載があり、16～17ページに行政のDX・市民生活でのDXに関する記載がある。アクションプランを作成・見直しする段階で、市民生活に関係ある部分をしっかりPRしてほしい。また、マイナンバーカードについて、今後は免許証・保険証等の情報も入ると思うが、セキュリティの関係が気になる。その部分についても大丈夫であることも含めて、マイナンバーカードの必要性をPRしながら、カードの交付促進に取り組んでほしい。

○景下委員

私はマイナンバーカードを作っていたので、10万円の特別給付金の時は早くお金が振り込まれた。改めてマイナンバーカードの普及が進めばいいと思った。また、エストニアに行ったことがあり、7～8年前に14～15歳の子どもに道を尋ねたら、スマートフォンでグーグルマップを見せてくれた。街の中でWi-Fiは飛んでおり、私のスマートフォンでもつながることができた。彼は、Kindleやebooksで漫画のドラえもんを読んでいて、日本のことに非常に詳しかった。7～8年前でこのような状況で、日本は遅れていると思った。もう1点聞きたいのが、高齢者への支援についてである。公民館のWi-Fiは30分で切れるが、もしも公民館で無料のWi-Fiを提供でき、タブレットが貸出できるようになれば、高齢者への教育が進むのではないか。青少年の方は、学校での教育が進んでくと思うが、山間部に住む高齢者の方々は、公民館でそういう教育を受けられるような機会があればいいと思う。

■高橋部長

新市域の事業者とは別の事業者へ委託している関係で、旧市域のWi-Fiは30分で切れるようになっている。時間を延ばすことができるか、話を進めてみたい。学校の方でもGIGAスクールということで、1人1台タブレットを持っているが、公民館での夏休みの活動等で使っていただくためにも考えていきたい。また、エストニアでは「eIDカード」というものを2002年から導入している。日本のマイナンバーカードは2016年に導入されており、10年以上の差がある。日本では、現在3人に1人しかマイナンバーカードを持っていない状況で、今後100%近い普及率を目指す必要がある。免許証・保険証等としての活用について、国の方で色々な法律が整備されてきており、実際に使う場面が増えれば、カードを持つ方も増えてくと思う。そのような部分にも期待をしている。

○児嶋会長

日本はあと何年で追いつくか。

■高橋部長

何年ということは明言できないが、確実に言えるのは、9月にデジタル庁ができることによって、国全体を挙げて取り組みが進む。本市の場合は、4月に「地方創生・デジタル化推進室」を作ったので、マイナンバーカードの普及を始め、DXについて取り組んでいくことを約束したい。

○山口委員

子育ての分野は、時代が進んでも同じような問題が繰り返される世界である。特に子育ての不安、育児疲れ、虐待は年々増えていくばかりである。DXの推進によって、子育て家庭への24時間体制での支援が進んでほしい。現在も取り組みは行われているが、なかなか支援を必要としている子育て家庭と繋がっている実感がなく、深刻な問題を起こされる家庭が後を絶たない。ぜひそういう分野でも、鳥取市は積極的に目に見える形での支援をDXとしてやってほしい。それから、幼稚園・保育園の入所手続きは、親にとって大変な事務作業で

ある。このあたりで、インターネットでの申請ができれば、もっと楽になるという声を聞くので、いち早い取り組みを希望している。

○児嶋会長

入所手続きについては、鳥取市はあと何年かかりそうか。

■高橋部長

こちらは何年ということは明言できないが、保育園の入所判定等でRPAを使うことにより、少しでも早く処理を進めることができないか、今取り組みを進めている。ただ反面、直接書類を持ってきていただいた時に、そこで面談をさせてもらって色々な悩みを伺うことも、行政としては必要なことであると思っている。その辺のところも上手に組み合わせて、なるべく皆さんの負担を減らすことができるような方策を今考えている。

○植田委員

個人的には、鳥取市のオンラインを通じた行政手続きを活用しており、便利になったと感じているが、高齢の世代までいかに浸透させていくかという課題がある。公民館や地域包括支援センター、保育園・学校などの公的機関で、使い勝手が分からない方への支援ということで、コーディネーター役の育成が必要だと思う。また、保育園・幼稚園の入所手続きの簡略化の話があったが、民間の学校や私立の幼稚園・高校では、学校と保護者のやりとりを全てスマホ一つで行っている。担任の先生だけでなく、他の先生方とも情報共有ができるようになってきている。市の保育園等も、そういうものが進めば、さらに使い勝手が良くなるのではないか。

○児嶋会長

日本海新聞社の内部では、どのようにDXが進んでいるか。

○植田委員

電子新聞はある。もちろん新聞の紙はなくしたくないので、紙の発行は続けていくが、有料の電子新聞という形ではなくて、購読者の方へ無料で電子新聞のサービスを提供している。また、会議も全てオンラインである。専門部署も立ち上がっているが、専門的な人材の育成というのが弊社もまだまだこれからだと思っている。これから活用の仕方が広がっていく部分なので、力を入れていきたい。

○林副会長

色んなご意見をいただいたが、特に福祉の関係では、24時間子育て関係の相談ができ、情報提供があるという活用の仕方はとても便利がいいと思う。DXは色んな活用の仕方があるが、そこから置き去りになる方々への支援が必要である。DXが進むことにより、置き去りになる人が出てこないような配慮がやはり大事だと思う。また、マイナンバーカードについて、以前、子どもに戸籍謄本の写しを送ってほしいと言われ困ったが、鳥取市に教えてもらったら、全国どこでもマイナンバーカードがあれば取得できるとのこととても驚いた。やはりとても便利の良いものだった。

○網本委員

資料16ページに「国民健康保険証のマイナンバーカード一体化」とある。国民健康保険証というのは毎年配達されるが、マイナンバーカードの中に国民健康保険証の情報が入るのか。

■上田室長

国民健康保険もだが、その他健康保険全般が所定の手続きを行うことで、健康保健証として使えるようになる。国の方は10月ごろから運用を開始するというので広報している。

○網本委員

これからは、国民健康保険証は配達されなくなるということか。

■上田室長

保険証は引き続き配達されるが、持ち歩かなくてもカード1枚で色々なことができ、便利になる。

■高橋部長

網本委員からご質問いただいたインターネットの保有率だが、毎年、国の方で情報通信白書というものを作っており、鳥取県のインターネットの利用者の割合は86.1%である。これはパソコン・スマートフォン・タブレットをすべて含めて、86.1%の方が個人で利用しているということである。

○児嶋会長

小中学生へタブレットが配布され、何年か経っているが、今はもう100%配布されているのか。

■安本次長

本市においては、昨年度3月に児童1人1人にタブレットを貸し出したところである。あわせて、グーグルアカウントも配ったので、タブレットを家庭に持ち帰らなくても、家庭にインターネット環境があれば、インターネットにアクセスをして教育サイト等が使える状況になっている。インターネット保有率が、県で86.1%ということだったが、家庭については、インターネット環境が100%整っている状況ではない。教育委員会としては、インターネット環境の整備を助成するような制度を本年度も引き続き行っているところではあるが、昨年度末に調査をした段階では、インターネット環境が整備されていない家庭が大規模中学校で1学年に最大30家庭あることが明らかになった。そのあたりを重点的に支援していきたい。

○網本委員

資料17ページに「スマート農業機械の整備」の記載がある。位置情報を把握して、自動的に掃除ロボットのようなものが動いて芝刈りを行うが、こういう機械を鳥取市として導入して、草刈りをしなくてもいいようにできないか。

■横尾次長

昨年度、日進小学校で自動芝刈り機を試験的に導入し、成果が比較的好調だったので、他に

も何校か希望される学校へ導入している。自動芝刈り機は省力化にはなるが、いくつかデメリットもある。機械はワイヤーを張った範囲を動く。伸びきった芝は刈れないため、最初はある程度芝の高さを揃える必要があり、少し手間がかかる。しかし、それ以降は機械を設定すれば定期的に刈ってくれるため、省力化が図れる。また、刈った芝を集めるという作業も大変だと思う。自動芝刈り機は非常に有効であるが、学校によっては、ワイヤーを貼る作業が手間だったり、校庭の場所の関係があったりして、業者に芝刈りを委託するところもあるが、希望する学校については自動芝刈り機を導入していこうということで、市の教育委員会は考えている。

(2) SDG s の推進について・・・資料2

(説明)

(意見交換)

○児嶋会長

SDG s 未来都市の選定について、おめでとうございます。これは世界に鳥取を発信する素晴らしいものだと思って、上手に育てていきたいと思う。深澤市長に一言お願いしたい。

■深澤市長

ありがとうございます。以前から市民電力ということで、一緒になって色々な取り組みをさせていただいているが、今回は微生物発電に着目するという点で、今まであまりなかったような取り組みをこの鳥取の地で始めることができた。国のSDG s 未来都市選定で評価された一番のポイントは、田んぼで発電するという点である。もっと効率化を図っていくと、非常にコンパクトな面積で電気が賄えるということで、色んな応用が効き、色んな可能性を持っていると考える。これは、鳥取市だけではできないことであり、民間の色々な事業者の方々と力を合わせて一緒になってやっていくということで、初めて実現をしていくものである。これからしっかりと取り組んでいきたい。

○綱本委員

教育委員会の方にお尋ねしたい。小学生にインターネットから文章をダウンロードできることを教えているか。

■安本次長

現在1人1台のタブレットを貸し出しているので、随時、検索ができる環境を整えている。

○綱本委員

市報は町内会を通して配布されているが、インターネットでダウンロードすることができる。皆がダウンロードできるようになれば、印刷は必要なくなると思う。ダウンロードすれば、紙代・印刷代、それに使う電力が節約できると思う。

■高橋部長

おっしゃる通りだと思う。市の内部では、ペーパーレス化の取り組みを進めており、内部の会議は基本ペーパーレスで行っている。それによって、どれくらいの効果があるか今試算しているところであるが、将来そういったことを主流にしないといけないと思っている。ただ一方で、紙でないと表現しきれないところもあるので、そこは上手に使い分けをしていく必要があると思うが、ご提案の趣旨は非常に大切なことだと思うので取り組んでいきたい。

○植田委員

鳥取市が取り組む「農村から真の持続可能なまちづくりの実現」について、鹿野町や色んな地域があるが、鳥取市の先駆的な取り組みをPRできるようなモデル地域の指定は行われているか。もしくは検討等があるか。

■高橋部長

現時点ではモデル地域の指定は行っていない。

○植田委員

どこかの地域を指定してできる環境がありそうだったと思うが、そういう可能性はあるか。

■平井部長

SDGs 未来都市の事業自体は、鹿野町のいちご栽培を行っている地帯で展開していきたい。最終的には田んぼ発電を行い、それが使えるかどうかというところまで持っていきたい。ワーケーションの話もさせてもらったが、近くに山紫苑があり、ワーケーション対応で改装する予定がある。そういったものも組み合わせ、鹿野町でそういう活動が盛んになり、人が集うことをイメージしていて、最終的にそれを他の地域へ展開できそうになればやってみたり、全国的にそれを打ち出していったりすることもできたらいいと考えている。

○児嶋会長

モデル地域はこれからどんどん出てくると思う。今、商工会議所や市と一緒に、6次産業化をどんどん進めており、いちご以外にもパパイヤなど色んな果物の話も出ているので、これからどんどん進んでいくと思う。

○山口委員

SDGs は2030年を目標としているが、私たちがお預かりする子どもたちは、その10年後にやっと社会で活躍するような幼い子たちである。2030年の一過性ではなく、しっかりと今身につけてあげたいということで、内部でも色々と検討している。SDGs の17の目標は、今まで私たちが保育・教育で大切にしてきた分野ばかりだが、子どもたちに理解してもらうためには、絵本を使うなど色々な手法が必要だということを勉強会で話している。市の教育委員会で取り組んでいる事案を、保育園・幼稚園の園長会あたりでも教えてもらったり、図書館が中心となってSDGs に特化した本の選考を行ったり、勉強会を積極的に開いてもらえれば、もう少し保育園現場も動きやすくなると思うので、ぜひ検討をお願いしたい。

○児嶋会長

とてもいいご意見だった。最近、SDGsのゲームが有名になりつつあるようで、商工会議所も購入した。また、SDGsのカルタもある。今色々な素材が出てきている。

■安本次長

学校教育と幼児教育の連携は大変重要であると思っている。途切れなく、こういった学習を積み上げていく必要があると思っているので、積極的に、園長会等でも学校教育の取り組みについて周知をしていきたい。

○松下委員

今まで推進してきた多くの施策は、SDGsの達成に寄与するものである。私の法人の場合には、利用者の方々が持続的に利用したい施設であるか、サービスを提供する職員がずっと働きたい職場であるか、職員や地域に利益を還元できているか等、今までやっていることをそのまま改善しながらやっていけば、SDGsの誰一人取り残さない持続可能な社会を実現できるのではないかという考えであり、できるところはどんどん変革して行ってやっていこうと思っている。8月に市報でSDGsについて広報されるということで安心した。やはりそれぞれの企業・個人の方々が意識を持つことで、SDGsの実現に繋がっていくと思うので、しっかりと啓発をお願いしたい。

○綱本委員

SDGsは国連で採択されたが、世界の人口が地球上にどれくらいまで住めるかという議論が全然されていない。その議論をしないとSDGsも成立しないと思う。鳥取市の方から国連の方に申し入れをしてほしい。

■深澤市長

SDGsは、一つの地方自治体で取り組んで効果が出るような取り組みではなく、地球規模で取り組んでいくことによって、初めて色々な効果が出るものだと思っている。国際情勢の変化等があるが、全ての国が同じような意識・認識を持って取り組んでいくということで、本市だけで取り組んでもなかなか具体的な効果も出せないが、色々な形で地方からも発信をしていくことは非常に大切なことであると思う。先ほど微生物発電があったが、こういったことは本市が先駆けて取り組んでいるという情報発信をすることも一つのメッセージになると思う。色々な形で取り組み、あるいは情報発信を続けていくことは非常に大切なことだと思っている。

○児嶋会長

最後に、林副会長にまとめをお願いしたい。

○林副会長

SDGsは、地域や個人、企業、色んなところが積極的に取り組みしていかないとなかなか実践できないことである。まだまだ新しい概念だが、実際は今まで取り組んできているものがかなり入っていると思う。個人で努力することとそれぞれの団体に努力していくこと、また、協働してできるようにしていくことがとても大事だと思った。本日は色々な質問に対し

て、色々な回答があった。

■深澤市長

長時間にわたり、ご意見・ご提言をいただき、心より感謝を申し上げます。今日はDX・SDGsの推進ということで、非常に大きなテーマであったが、各委員の皆様からいただいたご意見・ご提言をもとに、引き続きしっかりと取り組んでいきたい。横文字がたくさん出てきてなかなか分かりにくいのが、分かりやすく市民の皆様にお伝えしていくことが改めてとても大切なことだと思った。また、SDGsの取り組みについては、普段から取り組んできているようなこともたくさんあり、そのようなことをもう少し具体的にお伝えをしていくことが必要だと思っている。DXの推進についても、鳥取市は昭和40年代から電算化に取り組んできているが、このデジタルトランスフォーメーションをさらに進めていくことにより、内部的には業務の効率化や精度が高まり、市民の皆様の利便性をさらに高めていくことにつながる。SDGsについても、本市は第11次総合計画がスタートしたところであるが、第11次総合計画とSDGsの目標年次が2030年ということで一致する。団塊ジュニアの方が65歳になられる2040年も迎えるが、その先も見据えて、今やっておかなければならないことを鳥取市としてやっていこうということで日々話し合っている。その一つが、情報インフラを今整理していくということで、今年度までに超高速通信の全市域での整備をやろうとしているところである。微生物発電についても、ユニークな取り組みであるため、実用化するまでしっかりと取り組んでいきたい。また、鹿野町のイチゴ栽培については、従来オフィス栽培等は化石燃料を用いるが、地域の資源である温泉熱を活用してCO2を発生させないということ、環境に負荷を与えずにあるものを使っていくということで、非常に優れた取り組みだと思っている。これは、ほぼ実用化ができていないかと思うが、更にこれを市の農業分野で水平展開をしていくようなことも考えている。この2つについて、これからもしっかりと取り組んでいきたい。今後もお気づきの点やご提言があれば、またお寄せいただけると大変ありがたい。